

鳥取砂丘コナン空港と周辺観光地等を結ぶ
二次交通改善活動プラットフォーム 第3回会議
議事要旨（概要版）

1. 日 時：令和5年1月31日（火） 14:30～16:30

2. 場 所：鳥取空港国際線ターミナルビル2F 出国待合室

3. 議事概要：

(1)（仮称）鳥取空港航空機利用・地域交通戦略 に対する構成員等からの意見

①事業実施スケジュール

- ・3年という実施期間を提示しているが、イベント電子チケットやレンタサイクル等、実施可能なものから前倒して実施していく想定である。
- ・実証実験などは3年後と言わずに早めにやった方が良い。保守的な考え方は置いておいて、実施できるものから進めていただければと思う。
- ・出来ればキャッシュレスについても合わせて対応して一歩・半歩進んだ形でやっていただくことを考えると前進できる。

②空港からの二次交通

- ・生活路線である湖山・賀露の2路線について、観光の主旨の強い8の字路線にした場合、既存利用者がどのように感じるかという懸念もある。実現性については関係者間の議論が必要である。
- ・8の字路線について、利用状況を把握した上で、適切なシステムによる効率的な運行といった視点が必要である。
- ・既存のもの以外の活用、かにかっこ空港ロードでの小型EV車や電動キックボード等のパーソナルモビリティが選択肢にあっても良いのではないか。
- ・鳥取市で令和3年度に実証試験された自動運転については引き続き検討を続けるが、費用面、乗り心地の面で課題も多いと感じている。

③空港でのイベント開催との連携

- ・空港でのイベント開催との連携について、将来的にはメニューを作って頂いてホームページに掲載するなど、ぜひ開発して頂きたい。これらのメニューを、今までの現金のやり取りではなく、あえて電子チケットで販売することを検討してほしい。
- ・JR西日本ではWESTERというアプリを提供しており、経路検索や現在地を中心としたイベント情報を掲載している。アプリでは、現在地から周辺の施設やお得なクーポン情報が取得できる。令和5年度、山陰でもデジタルチケットによるエリア宅配を実装予定である。
- ・先進事例については、課題みたいなものも盛り込んでいただければ良いと考える。

④キャッシュレス化

- ・県民はまだまだ現金主義、現金利用が多い状況（特に高齢者）であり、すぐに実施は難しいのではないかと。
- ・鳥取県西部や島根県においてはＩＣカードが導入されている。お年寄りのＩＣカードの利用率も高い。実はお年寄りこそキャッシュレスがなじみやすいといった部分もある。
- ・令和５年度の４月１日からは鳥取市の循環バス「くるり」でもＩＣＯＣＡを導入する。また、モバイルＩＣＯＣＡも今春導入予定である。
- ・ＤＸ推進は県全体のミッションである。先日、鳥取県東部地域の交通事業者や東部自治体のトップが集まって議論し、キャッシュレス化推進の方向性で合意した。
- ・目的地までの鉄道・バスとの連携は重要である。交通手段で決済方法が別々にならないよう、一元化というのがキーワードになるかと思う。
- ・キャッシュレス化は手数料が取られることから、店舗としては行政的な支援がないと中々取り組みづらい状況である。利便性の享受の視点から、交通関係だけのキャッシュレスではなく、宿泊やお土産・買物につながっていく形（地域通貨の方向）で検討していただければと思う。
- ・商店向けのキャッシュレス端末について、ＪＲ西日本から無料で提供している。イニシャルコストやランニングコストがかからず、手数料も交通系決済は数％で済む。
- ・ＩＣカード端末として、鳥取市循環バス「くるり」で導入されている通常型より簡易・安価な費用で導入可能なものもある。「くるり」のものは位置情報・出情報を記録する端末だが、空港バスの場合、目的地が空港しかないのので、運賃を定額としてしまえばデータ取得も容易である。ランニングコストは運賃で回収することも検討しても良いかと考える。

⑤その他

- ・大きな視点として、いかに山陰地方として面で観光客を取り込むか、というのを考えていきたい。色々な方と連携しながら、Ma a Sも活用していければと思う。

⑥費用・リスクの分担

- ・リスク分担については今後の課題と認識している。
- ・先日（令和５年１月２０日）開催された「羽田便利用促進のための戦略会議」において、空港からの二次交通の整備について要望が出たところであり、出席していた知事からも全面的に支援していくとの発言もあった。
- ・今後それぞれの作業部会において、取組内容は検討されていくと思うので、県としてどういった支援ができるのか検討していく。
- ・県としては、まずはプラットフォームや各作業部会の中で具体的に思い切った施策を練っていただいて、それに対して行政とか利用促進懇話会などが支援するという流れで進めていきたい。
- ・県の支援があるから頑張るといってでなく、「我々がやりたいのでサポートをお願い

したい」というスタンスが必要で、そのための計画づくりと考えている。令和5年度以降の活動はしっかりと予算を取りに行く活動でもあると認識している。

- ・これから施策を議論していく中で、スピーディーにやらなければいけないということであれば、例えば県が空港ビルを支援して、空港ビルの方で事業化する等、方法はあるので、施策の内容を見させていただいてご相談させていただければと思う。
- ・作業部会の今後の進め方として、引き続き空港ビルが事務局を担当する。プラットフォームの枠組みで引き続き連携を取りながら進めていきたいと考えている。協力会社との連携については令和5年度にご相談させていただきながら進めてまいりたい。

(2) 次回開催

事務局から、本日の議論を踏まえた資料修正版を後日送付すること、令和5年度の作業部会について改めて連絡することを説明し、すべての議事が終了した。

以 上